

マテリアリティとESG目標

リコーグループは、「事業を通じた社会課題解決」とそれを支える「経営基盤の強化」の2つの領域で7つのマテリアリティ(重要社会課題)を特定しています。

また、ESGの取り組みを「将来の財務を生み出すために不可欠なもの」と位置付け、各マテリアリティに紐づく17の将来財務目標(ESG目標)を設定し、事業活動を通じた社会課題解決に取り組んでいます。

リコーグループは、目指すべき持続可能な社会の姿を、経済(Prosperity)・社会(People)・地球環境(Planet)の3つのPのバランスが保たれている社会「Three Ps Balance」として表しています。この目指すべき社会の実現に向け、持続可能な開発目標(SDGs)やリコーの経営理念、中期経営計画、社外有識者の意見を踏まえ、経営企画・サス

テナビリティ部門が経営層と議論を重ねた上で、事業を通じて注力するマテリアリティを特定しています。(P16 マテリアリティの特定・改定プロセス)
中期経営計画単位で戦略との整合性の観点からマテリアリティを見直すとともに、2020年度より各マテリアリティに対応したESG目標を設定し、その実績を開示しています。

役員報酬とESG指標

リコーでは、ESGの取り組みや目標達成に対する経営責任を明確にするため、2020年度より役員報酬にESG指標を組み込んでいます。取締役の報酬については、賞与算定式のESG指標として「DJSI*年次レーティング」を設定しています。また、執行役員の報酬については、事業業績目標および重点施策の達成度合いに加え、マテリアリティに紐づいて設定されたESG目標の達成度合いが評価指標に組み込まれており、この評価結果によって毎年の報酬が決定されます。

* DJSI(ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス):米国のダウ・ジョーンズ社とサステナビリティ投資に関する調査専門会社であるS&Pグローバル(S&P Global)社が共同開発した株価指標で、経済・環境・社会の3つの側面から世界各国の大手企業の持続可能性(サステナビリティ)を評価するもの

マテリアリティの特定・改定プロセス



7つのマテリアリティに対するリコーグループの取り組みとESG目標

| 事業を通じた社会課題解決 | | | | | | |
|------------------|---|--|---|--------------------------------|---------------------------------|---|
| マテリアリティ | 2030年目標 | 社会課題解決と事業戦略 | | ESG目標(2020年4月-2023年3月) 評価指標 | 2020年度実績 | 取り組み・トピックス |
| | | 社会課題 | 事業戦略 | | | |
| “はたらく”の変革 | 価値を提供するすべての顧客の“はたらく”の変革に貢献 | 社会課題 持続的な発展のために、企業では、働き方変革やIT化による生産性向上、社員のはたらきがいの向上が課題となっています。 事業戦略 デジタル技術・サービスの提供で、お客様の“はたらく”の変革を実現します。 主な事業領域 ●オフィスプリントイング／オフィスサービス | 顧客調査でのトップスコア率 ¹ | 30%以上 | 日本:28% 欧州:24% 米州:28% APAC:40% | 各地域の重要な顧客に対して、リコーに対する総合評価を調査しました。 |
| 生活の質の向上 | 3,000万人の生活基盤の向上に貢献 | 社会課題 先進国と途上国、都市と地方では、医療・教育・地域サービスの格差の解消が必要となっています。 事業戦略 オフィスソリューションで培ってきたデジタル技術とノウハウを活かして、医療・教育・地域サービスの質の向上を支援します。 主な事業領域 ●ヘルスケア ●スマート社会インフラ | 顧客への価値提供拡充度 | 20% ² | 10% | スクラムパッケージを6.8万本販売し、2017年の販売開始以来、累計販売本数14万本を突破しました。 |
| 脱炭素社会の実現 | GHGスコープ1,2の63%削減 およびスコープ3の40%削減 使用電力の再生可能エネルギー比率50% | 社会課題 気候変動の影響が顕著になっており、対策の強化とスピードアップが課題です。 事業戦略 「SBT1.5°C認定」目標を掲げ、自社排出のGHGの大幅削減を進め、社会全体の脱炭素に貢献する商品・ソリューションを提供します。 主な事業領域 ●オフィスプリントイング／オフィスサービス ●環境 | GHGスコープ1,2削減率(2015年比) | 30% | 36.5% | 再エネ導入および省エネ活動(生産・業務プロセス改善、社有車の減車・EV化等)により、コロナ影響を差し引いても前年比減となりました。 |
| 循環型社会の実現 | バリューチェーン全体の資源有効活用と新規資源使用率60%以下 | 社会課題 天然資源の持続的な利用を可能にするために、資源の循環利用や新規投入資源の削減の強化が課題です。 事業戦略 3R・プラスチック削減／代替をさらに強化し、プリント・オンデマンドの提供により、お客様の資源の効率利用に貢献します。 主な事業領域 ●オフィスプリントイング／オフィスサービス ●商用印刷／産業印刷 ●サーマル | GHGスコープ3削減率(2015年比) | 20% | 31.7% | 製品の省エネ性能向上(TEC値減)により使用カテゴリーのCO ₂ 排出量が減少しています。 |
| ステークホルダーエンゲージメント | 16 プライバシー 17 パートナーシップ | 社会からの要請 社会の持続可能な発展のために、企業にはグローバルバリューチェーン全体のサステナビリティの強化が求められています。 経営戦略 リコーグループは、ビジネスパートナーとの協働を強化、自社・ビジネスパートナー・社会とWin-Win-Winの関係を構築します。 | 生産拠点のRBA認証取得 | 主要生産6拠点完了 | 3拠点完了 | リコーアイダストリー東北事業所、Shanghai Ricoh Digital Equipment、Ricoh Manufacturing (Thailand) の3拠点で認証取得しています。(2021年5月時点) |
| 共創イノベーション | 9 プライバシー 17 パートナーシップ | 社会からの要請 持続可能な発展のために、さまざまな産業セクターでイノベーション促進が求められています。 経営戦略 リコーグループでは、大学・研究機関、他企業等、パートナーとの共創を重視、社会課題解決に向けた効率的な研究・技術開発、新たな価値創出のための連携を進めます。 | サプライヤーの行動規範署名率 | 重要サプライヤーの署名完了 | 86%完了 | 重要サプライヤー226社に対してESG説明会を16回実施し、リコーグループの方針・戦略を共有し、行動規範への署名を推進しました。また、リコーグループ社員の法令・規律・契約違反についてサプライヤーの皆様から直接通報いただけるホットラインを開設しました。 |
| ダイバーシティ&インクルージョン | 5 ダイバーシティ 8 パートナーシップ 10 サステナビリティ | 社会からの要請 持続的な発展やイノベーションのために、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現、多様性の尊重が必要になっています。 経営戦略 リコーグループでは、「自律型社員の活躍」を経営方針に掲げ、社員の多様性を尊重、イキイキと働くような環境を整えていきます。 | 国際的セキュリティ標準 各パートナーからの評価スコア ³ (サプライヤー、販売代理店、開発パートナー) | ISO/IEC、NISTに基づくセキュリティ強化完了 | 非開示 | |
| | | | 主要ESG評価のトップ評価獲得 | DJSI、CDP等 | DX認定事業者選定 | 左記に加えて、日経SDGs経営大賞2020年度大賞を受賞することができました。 |
| | | | 経済産業省「デジタルトランスフォーメーション銘柄」採用 | DX銘柄採用 | 2021年6月、経済産業省「DX認定事業者」に選定されました。 | |

経営基盤の強化

| マテリアリティ | 社会からの要請と経営戦略 | | ESG目標(2020年4月-2023年3月) 評価指標 | 2020年度実績 | 取り組み・トピックス |
|----------------------|--|---|--------------------------------|--|---|
| | 社会からの要請 | 経営戦略 | | | |
| ステークホルダー エンゲージメント | 社会からの要請 社会の持続可能な発展のために、企業にはグローバルバリューチェーン全体のサステナビリティの強化が求められています。 経営戦略 リコーグループは、ビジネスパートナーとの協働を強化、自社・ビジネスパートナー・社会とWin-Win-Winの関係を構築します。 | 生産拠点のRBA認証取得 | 主要生産6拠点完了 | 3拠点完了 | リコーアイダストリー東北事業所、Shanghai Ricoh Digital Equipment、Ricoh Manufacturing (Thailand) の3拠点で認証取得しています。(2021年5月時点) |
| 共創イノベーション | 社会からの要請 持続可能な発展のために、さまざまな産業セクターでイノベーション促進が求められています。 経営戦略 リコーグループでは、大学・研究機関、他企業等、パートナーとの共創を重視、社会課題解決に向けた効率的な研究・技術開発、新たな価値創出のための連携を進めます。 | サプライヤーの行動規範署名率 | 重要サプライヤーの署名完了 | 86%完了 | 重要サプライヤー226社に対してESG説明会を16回実施し、リコーグループの方針・戦略を共有し、行動規範への署名を推進しました。また、リコーグループ社員の法令・規律・契約違反についてサプライヤーの皆様から直接通報いただけるホットラインを開設しました。 |
| ダイバーシティ& インクルージョン | 社会からの要請 持続的な発展やイノベーションのために、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現、多様性の尊重が必要になっています。 経営戦略 リコーグループでは、「自律型社員の活躍」を経営方針に掲げ、社員の多様性を尊重、イキイキと働くような環境を整えていきます。 | 国際的セキュリティ標準 各パートナーからの評価スコア ³ (サプライヤー、販売代理店、開発パートナー) | ISO/IEC、NISTに基づくセキュリティ強化完了 | 非開示 | |
| | | 特許のETR(他社引用) スコア増加率(2020年比) | 20%増 | | (2022年度より実績開示予定) |
| | | RFG ⁴ エンゲージメントスコア | 各地域50パーセンタイル以上 | 日本:48パーセンタイル 米州:35パーセンタイル 欧州:21パーセンタイル APAC:31パーセンタイル | グローバルサーベイ体制を構築しました。調査結果は役員に共有し、改善に向けた施策を検討しました。また、日本のグループ会社向けには、改善活動のベストプラクティス共有会を実施、今後も継続予定です。 |
| | | 女性管理職比率① | グローバル16.5%以上 (国内7.0%以上) | グローバル:15.1% (国内:5.8% ⁵) | 各階層向けの女性社員育成研修やアンコンシャスバイアセミナー開催による意識啓発を実施しました。また、NPO法人J-Win主催の2021 J-Winダイバーシティ・アワード企業賞ペーシック部門で、準大賞を受賞しました。 |

*1 トップスコア率:もっとも高い評価の選択率

*2 国内スクラムパッケージの顧客比率

*3 リコーグループに対する各パートナーからの評価結果

*4 各地域でGallup社サーベイに参加している全企業を100とした際の、リコーグループのポジションを表したスコア

*5 2021年4月時点

● MORE 詳しくは本誌 ① 女性活躍推進P48